

金森興業 水素ガス切断能力増強

切板品質向上、SDGS推進

厚板・鋼管・特殊鋼加工販売大手の金森興業（本社・東京都江東区亀戸、社長・染谷俊彦氏）は、燃料ガスに水素を使用した厚板切断能力を増強した。中核拠点の千葉工場に、水素切断用のNCガス溶断機を1台増設。プロパンよりも高速・高品位で現場オペレータの作業負担軽減と作業環境改善にも寄与するほか、CO₂排出も抑制し環境配慮にもつながる。これらメリットをさらに高めるため、新設した溶断機には先穴あけドリルも装備した。

同社は数年前から本格的に水素ガス切断に着手。試行錯誤を重ねて軌道に乗せ、直近では千葉工場（山武郡芝山町）で手掛ける切板加工のうち、ベース厚を中心に月産約100トを水素で切断する。水素は火災集中性が高いのでプロパンやアセチレンといった一般的な燃料ガスに比べて、予熱時間も短くて済む。その分、熱歪みや反り・曲がりや抑えられ、ノロ取りなど作業者の後処理負担も低減する。しかも輻射熱が少なく、作業快適性も高いのでプロパンやアセチレンといった一般的な燃料ガスに比べての向上、省力（人）化に貢献することから、同社でも地球環境への配慮につながるSDGS（持続可能な開発目標）活動の一環と捉える。今回、水素ガス切断機KT-650G（約3300万円）の値上げとなった。



水素切断用NCガス溶断機が並ぶ（手前が新設した「KT-650G」）。先穴あけ用ドリル装置付き（写真右）

平鋼7.0m定尺 販売開始
平鋼・角鋼・広幅平鋼
西村鋼業株式会社
047(352)3181 (株)本社
0276(56)2460 (北関東支店)
0467(78)0211 (神奈川支店)
0223(29)2460 (東北支店)
http://www.nishimura-kogyo.co.jp/

関東データースチール

鉄筋棒鋼販売10万3000円に

鉄スクラップ急伸で 5000円上げ

合同製鉄と朝日工業 崎見生合同製鉄専務取締役による鉄筋棒鋼の共同（締役）は先週17日から販売会社、関東データー 鉄筋棒鋼の販売価格を1スチール（社長・山トン）10万3千円に引き上げた。上げ幅は5千円。主原料である鉄スクラップ急伸しているほか、合

金鉄や電気料金など幅広いコスト高もあり、再生産可能な販売の実現には早急な値上げが必要と判断した。鉄スクラップ市況は海外からの引き合いが強まり、2月中旬に急伸。足元のメーカー買値は昨年10月末の直近高値を上回り、2008年以来13年半ぶりの高値に切り上がっている。その他コストの全

大河内賞の受賞概要

生産工学分野の顕著な技術成果を表彰する2021年度大河内賞（大河内記念会主催）に選ばれたことを受け、日本製鉄とJFEスチールはそれぞれ18日、自社の受賞技術の概要を発表した。

生産工学分野の顕著な技術成果を表彰する2021年度大河内賞（大河内記念会主催）に選ばれたことを受け、日本製鉄とJFEスチールはそれぞれ18日、自社の受賞技術の概要を発表した。

日本製鉄 熱延ミルの圧延制御高度化

JFE 高耐震性厚板「HBL」を開発

日本製鉄は事業体区分で次点の「大河内記念生産賞」を受賞した。自動車用ハイテン（高張力鋼板）をはじめとする高機能鋼の生産性向上を目的に、熱延ミルで新たな計測器を活用した圧延制御技術を開発した。改善に限界があった。日鉄・東日本製鉄所京浜地区主任技術者、大森章夫厚板セクことで、高い溶接性を確保するため、高温で振動や大量の冷却水も伴う過酷な環境に耐える厚板を開発した。この厚板は、高層建築物の鉄骨柱や梁に使われる耐震性に優れた高強度厚板を開発した。



日鉄エンジニアリング（社長・石俣行人氏）は18日、大分市上下水道局から「大分市上下水道局から「大分市上下水道局から」を受注したと発表した。同社は代表とする企業グループが下水汚泥固形燃料化施設の建設・設置を担う。この施設は、大分市内や近隣自治体の計13カ所の下水処理場から発生する下水汚泥を集約後、大在資源再生センター（大分市大字志村）敷地内に建設する日

大分市の下水汚泥燃料化事業 CO₂排出年2700ト削減

日鉄エンジニアリング（社長・石俣行人氏）は18日、大分市上下水道局から「大分市上下水道局から」を受注したと発表した。同社は代表とする企業グループが下水汚泥固形燃料化施設の建設・設置を担う。この施設は、大分市内や近隣自治体の計13カ所の下水処理場から発生する下水汚泥を集約後、大在資源再生センター（大分市大字志村）敷地内に建設する日